

1. 預言者エリヤの後継者

I列王記 19:16 また、ニムシの子エフーに油をそそいで、イスラエルの王とせよ。また、アベル・メホラの出のシャファテの子エリシャに油をそそいで、あなたに代わる預言者とせよ。

→ 神様の選び：エリヤの後継者として選ばれたエリシャ

恵みの賜物を象徴する油注ぎは、最初に祭司たちのために定められた（出エジプト記 40章 15節、民数記 3章 3節）。次にそれは王の職へと拡大され、一般的には特に王の職と結びつけられるようになった。預言者の職は、エホバの力の第三の偉大な代表者として、同じ儀式によって聖別されるにふさわしかった

2. 預言者エリヤはエリシャを見出す

19:19 エリヤはそこを立って行って、シャファテの子エリシャを見つけた。エリシャは、十二くびきの牛を先に立て、その十二番目のくびきのそばで耕していた。エリヤが彼のところを通り過ぎて自分の外套を彼に掛けたので、20 エリシャは牛をほうっておいて、エリヤのあとを追えばかけて行って言った。「私の父と母とに口づけさせてください。それから、あなたに従って行きますから。」エリヤは彼に言った。「行って来なさい。私があるあなたに何をしたというのか。」:21 エリシャは引き返して来て、一くびきの牛を取り、それを殺し、牛の用具でその肉を調理し、家族の者たちに与えてそれを食べさせた。それから、彼は立って、エリヤについて行って、彼に仕えた。

エリヤは……彼にマントを掛けた——これは預言者の職を授ける儀式であった。東洋では、バラモンやペルシャのスーフィー、その他の聖職者や神聖な人物が任命される際も、同様の方法が取られる。すなわち、高位の聖職者によってマントが肩にかけられるのである。マントは、預言者たちが通常身に着けていた衣装であった。

→ 神様の召しと従順

- 1) 預言者エリヤは神様に従ってエリシャを見つけ出します。
- 2) 預言者エリヤは、自分の外套をエリシャにかけました。預言者としての職を授けました。
- 3) エリシャは、すぐに仕事を置いて、エリヤに従って仕えました。

3 預言者エリヤが天に召される日

1. 預言者エリヤが天にあげられる日を全ての預言者は知っていました。
2. 預言者エリヤは神様に示されて、ベテル、エリコへと導かれました。
3. エリシャは、預言者エリヤから離れようとしませんでした。

「主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。v2,4,6

2列王 2:7 預言者のともがらのうち五十人が行って、遠く離れて立っていた。ふたりがヨルダン川のほとりに立ったとき:8 **エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。**すると、水は両側に分かれた。それでふたりはかわいた土の上を渡った。:9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「私はあなたのために何をしようか。私があるあなたのところから取り去られる前に、求めなさい。」すると、エリシャは、「では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように。」と言った。10 エリヤは言った。「**あなたはむずかしい注文をする。しかし、もし、私があるあなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。**できないなら、そうはならない。」11 こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、一台の火の戦車と火の馬とが現われ、このふたりの間を分け隔て、エリヤは、たつまきに乘って天へ上って行った。

→ エリシャは預言者として召しを達成することを求めた。【エリヤの後継者として】
では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように。

「あなたの霊の二倍を私に与えてください」——この願いは、一般に考えられているような、師の奇跡の規模や数を上回る奇跡を行う力を求めたものではなく、預言の霊のより高い賜物を求めたものでもない。なぜなら、エリシャは先代に勝る存在ではなく、おそらく同等でもなかったからである。しかし、「二倍の分」という表現は、長子に対して用いられていた[申命記21:17]。したがって、**エリシャの願いは、単に師の預言者としての職務と賜物を継承することであった。**

→ 預言者エリヤの最後の言葉

あなたはむずかしい注文をする。しかし、もし、私があなたのところから取り去られるとき、あな
たが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。

預言者エリヤが天にあげられる時、瞬間までもエリヤを見続けること。

いつ上げられるかわからない状態、どのように上げられるかわからない状態の時に言われた言葉

4. 預言者エリヤの霊がエリシャにとどまる

エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている。

2:12 エリシャはこれを見て、「わが父。わが父。イスラエルの戦車と騎兵たち。」と叫んでいたが、彼はもう見えなかった。そこで、彼は自分の着物をつかみ、それを二つに引き裂いた。13 それから、彼はエリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸辺に立った。14 彼はエリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、「エリヤの神、主は、どこにおられるのですか。」と言い、彼が再び水を打つと、水が両側に分かれたので、エリシャは渡った。:15 エリコの預言者のともがらは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている。」と言い、彼を迎えに行つて、地に伏して彼に礼をした。

応用

1. 貴方は、神様の目的の為に選ばれています。全員主の大宣教命令の為に召されています。

ヨハネ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。**わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。**それはあなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためでありました、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも父があなたがたにお与えになるためです。

2. 神様の選びに応答しましょう。「主に仕えましょう」「主の為に時間を費やしましょう」

- エリシャはエリヤに預言者の職を与えられた時に、自分の仕事を置いて主に仕えました。
- ペテロは、イエス様に呼ばれた時に、自分の仕事、網をおいて、主に仕えました。

→ 貴方は、誰に仕えておられますか？ イエス様にどのように仕えておられますか。

→ 一日の大半をどのようにすごしておられますか？ SNS？この世の仕事？自分の趣味？伝道？祈り？

3. 神様の召し、はたらきの為に、霊的な賜物を熱心に求めてまいりましょう。「祈り求めましょう」

- 祈りの特権が与えられています：主の働きの為に祈り求めるものは何でもかなえられる
- 聖霊の賜物の特権が与えられています：求めなさいと主は言われます ルカ 11:9
- エリシャは、預言者エリヤの後継者となることを熱心に求めました
- エリシャは、預言者エリヤから離れませんでした。肉体的に、霊的に。
- ペテロや弟子たちは、聖霊のバプテスマを熱心に求めました。

→ 貴方が熱心に求めているものは何ですか？ お金ですか？自分の為に使う時間ですか？仕事？物？家族？

→ 貴方の心の中に、イエス様以外に大切なものはありますか。

4 主の働きに焦点をおく生活をしましょう。自分の生活が一番ではなくて、主が一番になりますように

- 召しをもらっても、召しの為に働いても、心が主と共になければ、肉的、宗教的な働きになります
- 心がいつもイエス様にあるならば、聖霊の導きにより、主の働きをすることができます。